まちづくりビジョンの今後の進め方について

令和3年7月15日に建設建築委員会において、「(仮称) 2050 まちづくりビジョン (たたき台)」を報告し、以降、たたき台を基に、地域のまちづくり団体、学識経験者、民間事業者等と意見交換を行い、「(仮称) 2050 まちづくりビジョン (素案)」をとりまとめた。

今後、<u>市民意見募集(パブリックコメント)を実施</u>し、令和3年度を目途に最終とりまとめを行う。

また、これと並行して、まちづくりビジョンで示した、目標とする未来 に向けた取組をまとめた**アクションプラン**を策定する。

1 まちづくり団体等との意見交換について

- (1) 令和3年7月~11月の期間に地域のまちづくり団体、学識経験者、民間事業者等66人・団体の方々と意見交換を実施。
- (2) たたき台に対する主な意見等
 - ①たたき台の考え方や方向性等について、賛同を頂いた。
 - ②素案に追加した内容
 - ・黒崎地区での取組の一例として高齢者等の「リカレント教育 (学び直し)で社会支援」を追加
 - ・「『2050年のライフスタイル提案』での登場人物に高齢者を追加

2 市民意見募集(パブリックコメント)について

・令和3年12月24日から令和4年1月24日の間で実施。

3 アクションプランのとりまとめ方

- ・まちづくりビジョンを実現していくためには、官民でまちづくりの考 え方や方向性を共有し、連携して取組を進めていかなければならない。
- ・アクションプランでは、まちづくりビジョンにおける各地区のまちづくり方針を基に、官民が取組む内容を整理してとりまとめる。

4. 地区の「将来の姿」を描く STEP.8

2050年 まちづくりの方針

多世代が交わり支え合う











追







()4. 個性あふれるユニークな店舗











FRANKLOBSECHE

5.2050年のライフスタイル提案



黑崎

- EUROPARUS BRUIKS ERIANDS III 入っていて、食物性のデータだっ。所谓の味噌を行動してくれる。1 どのファムレストランルセンケーと提供していて、オーガニュケ係
- をお願いた。 ESENT (ロニギアロントルなどがあり、毎のがおいらせ 単く一
- 作業化によればしましょう。の記念がらりの名ではれて ・外には オイと集前の発音となりましたがしまかり。 カイ、地、バースと 水本としながり、二歳を準にしたタ メンスの大手を含まります。



(AU/N-DYDEVAREVABLE)

- 中上のあらら、私行中のプロジェクトののステムについて、実 が実践を行っため、未上の実がサポートセンターがリンストン
- ・ 美田 シミュメートが出て、たいら、まらまだシュー ・ 美田 シミュメートが出て、たいら、まらまだシュー ・ まちょうで、海が高くの地やのしていたからのがあり、 ・ ビンルマグリングで変が極度との影響は「フレル・プロジ の数が変えている。 ・ 山口 はですながしまって、変え中 ラビオの「ヒキュル」 のきた。間に、なくアグビスタなくな。





- ラーに対して変から他性の変えが、他がイントが出てなってくる。
 ・で発展的に見がるシオリンではたるできる他から、 ものであるからの変数があるといって、下記の方式が、 を対しまする。とはならってがいるメイント、トロループングワードが落下 を表示しませまがしまるが表しなる。プリングは中国よる中ないでからな。 リファンダーのはなりとからは、これでプライのまれましなができまったから 要素ができれまします。

思峭

- ■とおめては、天では2分のから、そのの青人タグレーを使いてきなくます。 私はファルットで、単のは20次、その代した日では1年で20人、フェラングですっ その後のなりましたのは1年で、10分割とできる。 をアルビングを経えたがは、下中の数をデオディではかってあり、1年で、人ときの また。レジンをおってからまでかる。最初の大大を大力によっての、1年で、人とない。 利力・シンとをいくからでかる。最初の大大を大力によっての、1年で、1分割となっていた。 の最かを含まって、インのなった。マード、1十分の「一」と、1十分の「中」の「一日 は1年であってがかれて、アンテー・ディルをかったと、とことがはなっていた。 になった。



小倉

- 308で多くもて本のお人に関われ、例めて見なが行いやってきた。
 ぐらっせびなり過ぎて、1人でいきのそとそが、総名、この名が論しら数にあるか。



黑崎

- COUNTY OF THE PROPERTY OF THE



東田

- 「自己は食用を付けても、このまち、物質でものだとでも思われて、表現しいコントラック



- グランドンシワーのと、ご芸芸を必要からため、月まで大学、学術の構造は自己のから表現が2月では学者が25一方が、一般をおいて、 を連集的にはどれると、アプラを表し、大学・ガインファン、一般を必要がある。 では、明らいは、アカリーのでは、大学のからなど、中心のではなっているからなど、 クラーの名が、中のは、月中の前のとなる。

思略

- ○無は別れびはとしる場合、日本の生年本の場合は、いずれ上を記するからませ、ま
- おかたからないに対してはず。
 お除むからないに対しては対するとなるとなってトングラーによったが、ボードのぐるからとくしますが、
 はないがらればないが、システンボーをはようなからなる長円面の下されたという。 はいますのたけのようながら、

東田

- 今日と共和の金をかせ、97、48とディンス上の対策ないます。ALC 194のもので くいの同なからのことによってき、48世により本語を表すったようのか、日本語の ものです。
- 様の元を、 ・一次/他を使えるために持ちしか!2月になるでとなり活躍(4代代表にあります)、★ 「中央の大・東京はながら、内に、ルフルデできょうデスをよっという。持ちには、
- でいるます。 * 5 / (2個内のアメンの教会学した。原は SNS (本方子を持って、ただた、有するを みそのみとは(**)のフィンフィンフィーをよくの名だから。



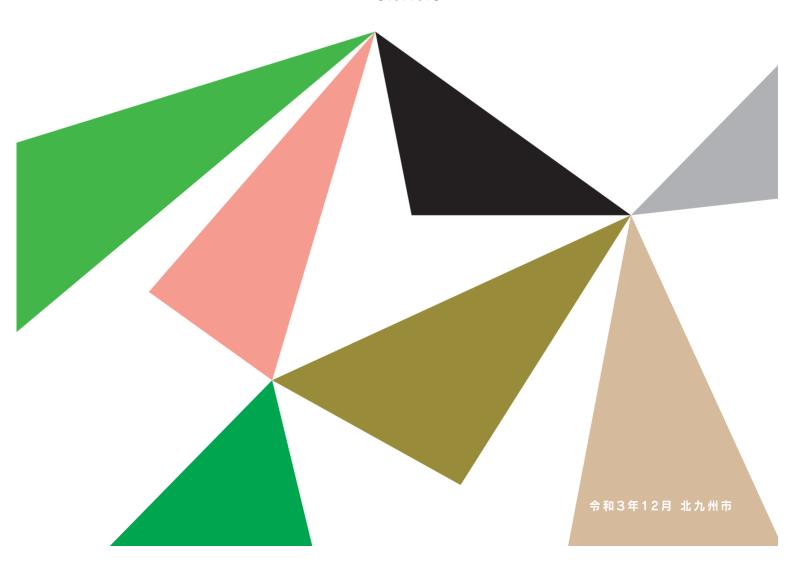
みちとくちぶえ

小倉・黒崎・東田からはじまる街並みの未来

2050

まちづくりビジョン

(素案)



INDEX

0. はじめに

■ 将来を見据えた「まちづくり構想」について

2. 「将来トレンド」を掴む STEP.1

3. 「地区特性」を把握する STEP.2

4 地区の「将来の姿」を描く STEP.3

小倉地区

黒崎地区

東田地区

5. 2050年のライフスタイル提案

6. おわりに

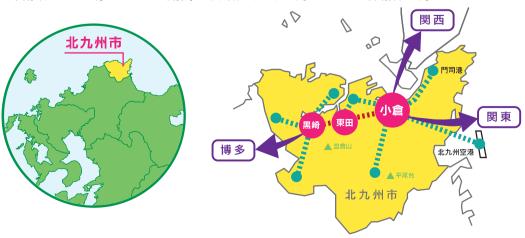
0. はじめに

策定の背景

- 日本の人口は、平成20年をピークに減少局面へ転じました。本市の人口は、昭和54年をピークに全国より約30年 早く減少へと転じています。
- 本市の中心市街地である小倉・黒崎においては、土地利用の更新が進まず、駐車場をはじめとした低未利用地や建 物の空き床が増加するなど、厳しい局面を迎えています。
- 高次な都市機能は集積しているものの、今後も続く人口減少等による経済活動の縮小に加え、コロナ禍での新たな。 生活スタイルの広がりにより、今後さらなる投資控えや消費控え等が懸念されます。
- 近年、小倉、黒崎では駅前の大型商業施設が撤退し、東田では大型テーマパークが閉園するなど、地区経済に追い打 ちをかける出来事がありました。
- しかし、悪い状況ばかりではありません。小倉では、統合型リゾートIRの誘致について議論を行った際、都市のポテン シャルを再認識できました。黒崎では、現在も新規マンションが建設され、地区内人口は増加しています。東田では、 広域集客の見込めるアウトレットモールを核とした新施設の整備が進んでいます。これら3地区では、近年、新たな 民間開発等により、都市イメージの向上に寄与する変化が起こってきています。
- このような都市再生の芽が出てきている今こそ、ネガティブな状況を打破し、本市が将来目指すまちの方向性につ いて議論し、新機軸を発信していきます。

これから求められるまちづくり

- これからの縮小の時代においては、不安定・不確実・複雑・曖昧な事象が多く起こり、将来が見通しにくくなるでしょう。そうな れば、これまでの成長の時代のように、その時その時で対処的に取り組むのでは、上手に立ち回ることが難しくなります。
- 今後は、まずいったん足元をフリーにして将来目指すまちの姿を描き、そして、それを皆で共有し、将来像に向かってベク トルを合わせ、各々の取組を1つずつ進めて行くことが求められます。
- 長期的に目指す道が定まっていれば、将来目指すまちの実現に向け、着実に歩んでいくことができます。 例えば新型コロナウイルスのように、予測し得ない状況が今後起こったとしても、短期的にはイレギュラーな対処が必 要となりますが、最終的には軌道修正されていくことでしょう。
- 本市は、2018年6月に国から「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、同年8月に「北九州市SDGs未来都市計画」を策定 しました。さらに、2020年10月、「2050年までに脱炭素社会の実現」を目指す、ゼロカーボンシティを表明したところです。 これからのまちづくりにおいては、SDGsの達成と脱炭素社会への実現に向けた取り組みを推進していくことが重要です。
- 本構想は、概ね30年先の2050年に本市が目指すまちの方向性をとりまとめたものです。本市のまちづくりに関わる 方々に対して、本構想を広く示していくことで、多くの共感を得たいと考えます。将来のまちの姿に共感し、まちへ投資し たくなる、消費したくなる、多くのファンを獲得できる、「選ばれるまち」になることを目指します。



北九州市SDGs未来都市

SUSTAINABLE GOALS























- 本市は、SDGsの達成に取り組むことで、「『真の豊 かさ』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリー ン成長都市 川を目指していきます。
- また、このビジョンの達成に向けて、経済・社会・環 境の三側面を統合的に取り組み、自立的な好環境 が生まれることを目指していきます。
- これにより、本市のブランドカの向上につながる と同時に、世界全体のSDGsの達成に大きく貢献 できると考えています。

ゼロカーボンシティ

- 産業都市である本市にとって、「脱炭素社会の実現」は高いハードルではありますが、「環境と経済の好循 環」により、都市や企業の競争力を高め、国内外の脱炭素に貢献する「北九州モデル」を構築し、グリーン成 長を推進していきます。
- また、2021年6月に「北九州市気候非常事態宣言」を行い、市民や企業、行政等あらゆる主体と気候変動 問題への危機感を共有することで機運醸成を図り、2050年のゼロカーボンシティの実現に向けた取組み をこれまで以上に加速させていきます。

北九州市が戦略的に目指すエネルギーの将来像



1. 将来を見据えた「まちづくり構想」について

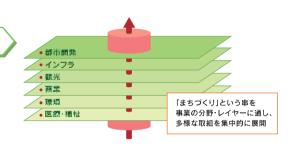
「これまで」と「これから」のまちづくり

これまでの「成長時代」のまちづくり

- 開発圧力が強く相当額の財源がある中、公共・民間がそれぞれ個別に投資。 双方の各投資が一定のインパクトを与えてきた。
- 公共は、インフラを整備し、人やモノの流れを活性化するなど経済活動を誘発し、また、機能・用途の単純化、ゾーニング・ 分離等により、民間の旺盛な開発圧力を調整。

これからの市と民間が連携したまちづくり

- 限りある財源を、公共と民間が連携して重点的に投資。 双方の特性や強みを生かし、効果的に最大のインパクトを生む。
- 「まちづくり」という視点で串を通し、多様な取組をコンパクトな エリアで集中的に展開。









バックキャスティングによるまちづくり

- 一旦足下をフリーにして、将来目指すまちの姿を考える。
- 目指す将来像と現状との間にあるギャップを捉え、ギャップを埋めるように、足元からひとつずつ取組を進めていく。
- 事業者や分野ごとに異なる、様々な企業活動等においても、将来を見通し、互いに長期的なベクトルを合わせることが必要。





経済活動等ニーズに適応したまちづくり

- 経済活動等のニーズを的確に捉えるとともに、ターゲットと なるプレイヤーを見定める。
- プレイヤーのパフォーマンスの最大効率化を図ることができ るような、ニーズに適応したまちづくりを進める。チャレンジ するまちのプレイヤーを積極的に応援する。
- 例えるならば、「まち」づくりとは、役者のための「舞台」づくり である。

「まち」づくりとは、役者の「舞台」をつくること 位業 新たかどジネスの創生 ||) クリエイティブ人材 | 優秀な人材を オフィスワーカー等 | 求める企業等

プレイヤー(役者)のパフォーマンス(演技)を最大化するためのまち(舞台)をつくる

構想の目的・役割 ▶ 構成 ▶ 対象エリア



構想の目的・役割

まちづくり構想は、未来の新機軸を打ち出すために策定。

市にとって —

市が考える将来目指すまちづくりの 方向性について、あらかじめ明示する

「メッセージ | となるもの

民間にとって

まちづくりへ投資を行う 際、一つの重要な

「判断材料」とするもの

市と民間にとって

お互いにベクトルを合わせ、将来に向かつ て同じ方向へと歩んでいくための

「羅針盤」となるもの

■ 構成

- 構想の目標年次は、一世代先の将来を見据え、概ね30年先の2050年とする。
- 一旦足下をフリーにして考えることのできるバックキャスティングの手法によ ることとする。
- また、構想の下に、別途、官民が連携して取り組む「アクションプラン」を策定 する。構想実現に向けた取り組むべき内容を記載する。



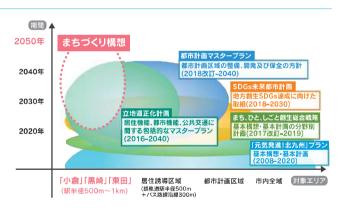
対象エリア

- 構想は、北九州市のまちづくりの核であり、かつ、近年、新たな民 間開発など都市イメージの向上に資する変化が生じてきている 「小倉」「黒崎」「東田」の3地区で策定。
- 集中投資するため、対象エリアはできるだけコンパクトに設定し、 駅周辺概ね1kmのエリアとする。



位置付け(他の構想・計画等との関係性)

- 「元気発進!北九州」プラン、都市計画マスタープラン等は、 本市全域を対象。
- 目標年次は、構想が2050年であり、「元気発進!北九州」プ ラン(2020年)や都市計画マスタープラン(2040年)等よりも 先を見据えたもの。
- 小倉·黒崎·東田の対象エリア内においては、他の構想·計画 に記載する取組に加え、本構想で描く将来のまちの姿を実現 するための取組を付加して、まちづくりを強力に推し進める。



構想の描き方 ∼ 2050年の姿を描くまでのステップ ∼



以下の3つの切り口から、チャンス・脅威を含め、社会の流れ・変化を掴む。

- ②「ゼロカーボン・技術革新·DX」の方向性
- ③ 将来、世代の中心を担う「若者の意識・常識」

「地区特性」を把握する

業務・ビジネス、住宅、商業・サービス、観光・文化、交通等に関し、地区の 歴史や地区固有の強み・課題など、特性を把握する。

『将来トレンド』と『地区特性』から

2050年における、地区の**「将来の姿**」を描く